

特集

# 私たちの 暮らしの なかの

# 水

料理やお風呂、洗濯にトイレ、私たちの生活に欠かすことのできないのが「水」。蛇口をひねればおいしくて安全な水が入ります。

私たちがいつも使っている水は、いったいどこから、どうやって私たちのもとに届くのでしょうか。



私たちの  
暮らしと

# 水

日本水道統計(※)によると、日本の水道水源は約7割が地表水(河川、ダム、湖沼の水)で、残りの3割は伏流水や井戸水などの地下水です。一方、中野市の水道水源は3割が地表水で、残りの7割は地下水となっており、全国平均に較べ地下水の割合が非常に高くなっています。

市の中央を流れる千曲川の東西に高社山、斑尾山など豊かな自然に恵まれた中野市は、豊富な地下水源に恵まれた土地ともいえます。

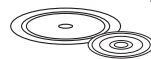


▲古牧東水源。千曲川の地下に潜流している伏流水を吸い上げています。

私たちの周りを

めぐる

# 水



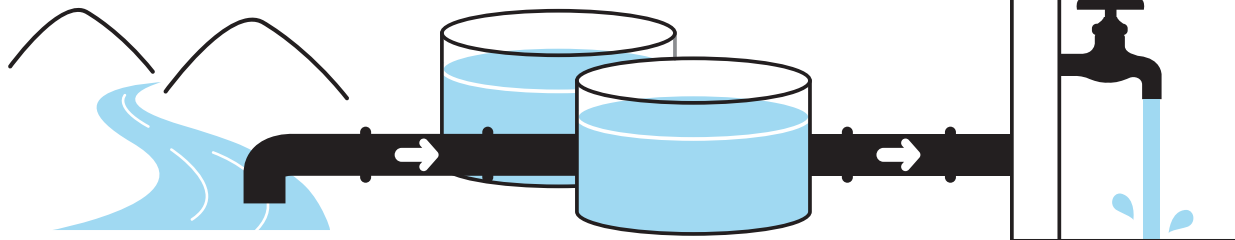
水道水のもとになる水のことを「原水」といいます。中野市の場合、16の水源から原水を取水しており、水源は表流水と伏流水が1カ所ずつと、14カ所の地下水に分けられます。

原水はきれいに見えても細かい砂や細菌などが混ざっています。原水を浄化して安全に飲用できる「浄水」をつくる施設を浄水場といい、田麦と栗和田の2

中野市の給水状況  
(2018年度末時点) ※牧ノ入地区を除く

給水人口(人)	43,337
給水戸数(戸)	16,803
普及率(%)	97.4
一日最大配水量(m <sup>3</sup> )	18,624
一日平均配水量(m <sup>3</sup> )	16,093

カ所に設置しています。浄水の品質検査は検査項目によって「毎日」、「月1回」、「3カ月に1回」とそれぞれ頻度で実施しています。各水源も毎年1回の全項目検査を行ない、安全できれいな水道水を供給しています。水道水は市内に34カ所ある配水池に蓄えられ、道路の下に張り巡らされた配水管を通り、私たちの家庭などに届けられます。市では4万3千人以上の人に、1日平均でおよそ1万6千m<sup>3</sup>の水を配水(2018年度末時点)しています。私たちが使った後の水は、再び川に戻り、海へと流れていきます。使った後の汚れた水をそのまま流してしまうと、生き物が住めなくなったり、健康に悪影響を及ぼしたりします。家庭で使われた後の生活排水は、下水処理施設で、きれいな水にしてから、川に戻しています。水質悪化防止のためにも、水洗化にご協力ください。



河川・地下水

浄水施設・配水施設

家庭など

**私**たちは昭和63年から中野市の水道事業委託を受け、市内2カ所の浄水場と各地にある配水池、水源などを管理しています。

浄水場や配水池での日々の業務は、機器や施設の点検・整備、水質の検査・監視業務が中心。施設では各種のポンプや滅菌機、水質測定器などさまざまな機器が稼働して



▲砂利や砂を通し水をこしてきれいにする「ろ過池」。



▲原水の汚れを効率的にとるため薬品注入設定を決める検査。

います。安全な水を安定して供給できるよう、機械の異常や水質の値に異常がないか毎日チェックが必要です。

水道水は、市民の生活や活動の中で必要不可欠なライフライン。地震や豪雨、雷による停電など自然災害はいつ起こるかわかりません。そのため24時間365日、深夜であっても素早く対応し、安全な水を届けるための体制を整えています。

安全な水道水を供給するために



(株)ウォーターエージェンシー  
田麦浄水場 業務総括責任者  
海谷 博 さん